第 17 回日本在宅医学会もりおか大会　**一般・指定演題**

（研究報告）抄録用紙

演題名 （全角 80 字以内）	終末期がん患者に対する訪問リハビリテーション導入に関する研究 ～ケアマネジャーへの質問紙調査を通じて～
演者名	坂口聡子１）　岩野歩１）　齋藤学１）　平部俊哉１）　熊谷由希子１） 岡村仁２）
所属	１）コールメディカルクリニック福岡　２）広島大学大学院

研究方法 （右から番号を選び NO.欄に番号をご記入ください）	1.症例報告　2.症例シリーズ報告　3.コホート研究 4.症例対照研究　5.調査研究　6.介入研究　7.二次研究 8.質的研究　9.その他研究	NO. 5

【目的】在宅医療・介護の普及に伴い、訪問リハビリでも終末期がん患者への事例が散見してきている一方、この時期、サービス調整の要となるケアマネジャー（CM）とセラピストとの連携は十分とは言いにくい。本研究では CM を対象に、終末期がん患者に対する訪問リハ導入経験の有無とその関連要因を調査し、その課題について考察することを試みた。【研究計画・方法】訪問リハ事業を有し、且つ在宅医療を推進している在宅療養支援診療所の診療圏域で活動している CM を対象に、独自に作成した無記名の自記式調査票（終末期がん患者に対する訪問リハ導入経験有無、イメージ、必要性、導入に至らない理由）を郵送もしくは直接配布し、回収した調査票の集計・解析を行った。調査期間は、2013 年 4 月 1 日～2013 年 7 月 31 日であった。【結果】3 県 7 地域から 388 名のデータが回収され、そのうち有効回答者は 357 名であった（回収率 74.6%）。終末期がん患者に対する訪問リハ導入経験「なし」は 72.5%、「あり」は 27.5%であった。また、訪問リハ導入の有無により実務経験年数で有意差が認められた。訪問リハ導入の有無と基本資格との間に関連はみられなかったが、訪問リハのイメージや必要性において有意な関連が認められた。【考察】今回、終末期がん患者に対する訪問リハ導入の有無と実務経験年数との関連が示唆された。また、訪問リハの導入経験のある人は導入経験のない人よりも、終末期がん患者に対する訪問リハ導入に対し高イメージを持っており、その必要性について高い認識がある傾向が明らかとなった。本結果より、導入経験がない、あるいは実務経験の少ない CM は、どのようなサービスを提供するのか具体的なイメージを持てずにいることが示唆された。したがって、今後は終末期の訪問リハのサービス内容や役割について、CM に対し共有認識が持てるような働きかけを行っていく必要があると考えられた。